

■ 指導案を立ててみよう ■

- 目標は「**道徳性を養うこと**」
- 評価は「**児童生徒の学習の状況等**」

道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

道徳科の「目標」、「学習活動」、「評価」のつながりに気を付けて、指導案を立てましょう。



○ 本時の学習指導

(1) ねらい

めざすのは「道徳性*を養うこと」です。

※道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度

～を通して、～しようとする判断力(心情/実践意欲/態度)を育てる。

(2) 学習指導過程【例】

学習活動	児童の意識の流れ	指導上の留意点
1 アンケート結果から自分を見つめ直し、本時の課題をつかむ。	<p>児童生徒の実態に応じて、ねらう道徳性の育成に向けた学習過程を考えます。</p>	
2 教材「 」を読み、○○について話し合う。 : ・役割演技を行い、お母さんの気持ちを考える。 : :	<p>(例)道徳的価値についての自覚が十分ではないので、アンケートを効果的に取り入れ、自分事として考えられるようにしよう。</p> <p>(例)ふだん意識していない立場に立って考えるようにし、多面的・多角的に考える場を保障しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を示し、「どこに問題があると思う？」と問うことで、自分の課題を捉えられるようにする。 ・お母さんの立場で役割演技をして考えたこと、その演技を見て考えたことを発表し、多様な考えの表出を促す。
3 ○○について、自分を振り返って、まとめる。	<p>授業のねらいに迫ることができるように、一つ一つの指導方法の意図を明確にすることが大切だね。</p>	

(評価)【例】物の大切さについて、これまでの自分を振り返り、家族の立場を踏まえて考えている。

(道徳的価値の理解を基に)

(自己を見つめ)

(多面的・多角的に)

「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を評価します。

道徳性を評価するものではありません。

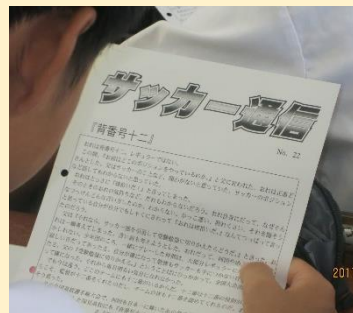
NG!「～しようとする判断力(心情/実践意欲/態度)が育っている。」

自己を見つめる

中学校第2学年「ゴール裏の青春」
(A(3)「向上心、個性の伸長」)

「試合にも出られないのにサッカーを続ける必要はない。」と言う父親は、ふと「サッカー通信」に載せられている息子の作文「背番号12」を目にします。それを読んだ父親は、息子の心の成長に涙するのです。(教材あらすじ)

授業者は、教材文中の「サッカー通信」を、実際の通信の形にして生徒に配りました(右写真)。どの生徒も、それを食い入るように読みました。教材と生徒とが一体になっていると感じた数分間でした。(香川県教育委員会発行「道徳通信」第24号より)



児童生徒が「自分だったら」と考えられるように、教材と子どもたちとの距離を近付ける工夫がよいですね。



多面的・多角的に考える

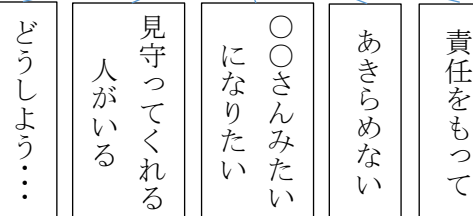
小学校第6学年「ひるがえる校章旗」
(C(16)「よりよい学校生活、集団生活の充実」)

クラゲチャートの上部には、中心場面に係る内容を取り上げました。そして、子どもたちは、そのことについてそれぞれの考えを出し合い、クラゲチャートの足の部分を組み立てていきました。

本時にねらう中心価値は、クラゲチャートの足の部分に表されている「責任」「希望・勇気」「勤労・公共の精神」などに支えられています。そして、そこには、友達の様々な考えが視覚化されています。

クラゲチャートは、多面的・多角的に考える道徳の一つのツールになりそうです。(同 第23号より)

「卒業するまでがんばろうね。」
一晩で信二さんが考えたこと



【子どもたちのクラゲチャートの概要】

様々な関連価値を導くために、思考ツールが効果的に用いられていますね。



児童生徒の反応を生かす

役割演技の途中、ある子どもが一瞬言葉を詰まらせる場面がありました。言葉が詰まるのは、本気で考え、自分の心の中を話そうとしている証拠。ここで授業者は「今、ちょっと言葉が詰まったよね。どうして。」と立ち止まり、その時の心を見つめさせました。(同 第32号より)

「子どもたちの心の中をもっと知りたい。」と思いながら、子どもの発言を引き出し、傾聴する姿勢が大切です。

